

写真撮影初心者のための作品相互評価ツール

A2201400 鈴木 将平

研究の背景（または概要など）

写真撮影をする人間にとって、自分の写真を第三者に評価されることは非常に重要である。特に、初心者の場合は、自分の写真に対してより多くの評価を与えられることが重要である。そういった機会を求めた時には、大抵の場合は写真を現像し、複数人ないし十数人で写真を持ち寄り講評会の場を設けて互いの写真を評価し合うのが主だが、その方法だと手間も時間もかかってしまう。そこで今回は講評会を PC 上で手軽に行うことができないかと考えた。PC とデジタルカメラの高い親和性に着目することで、新たな講評会スタイルの開拓が期待できる。

研究の目的

最大の目的は写真講評会を手軽に行えるようにすることである。PC を活用することによって非常に効率的に相互評価を行うことができ、そこで得られる刺激がさらなる写真撮影の熱意や技術、感性の洗練などに繋がると考えられる。

研究のプロセス

今回は、会津学鳳高等学校の写真専門部様に協力をしていただいた。学鳳高等学校様の講評会の方式は、特定の写真にのみ注目が集まり、日の目を見ることのない埋もれた作品が生まれてしまう（埋もれた作品には評価が全くつけられない）という問題点を抱えていたため、前述の研究の目的の達成に加え、その問題点の改善を重点に置いてツールの作成に取り組んだ。そして写真専門部様の部活動に参加させていただき、以下のような過程を経た。

- ① 部活動に参加。学鳳高等学校様で行われている現状の講評会の形式を調査
(多くの部員が自分の写真が評価されずに悲しい経験をしていたことが分かった)
- ② 顧問の先生と話し合い、現状の課題を調査
(写真を評価されるために講評会の方法を変更することが提案された)
- ③ 再度部活動に参加。前回の話し合いの内容を踏まえた視点から講評会の様子を観察
(新たな評価体系の必要性を感じた)
- ④ 見学をして気づいたこと、感じたことを顧問の先生に伝え、互いに良い手法を模索
(新しい評価ツールを作成する必要性を感じた)
- ⑤ 思いついたアイデアを PHP などの言語を用いて形にし、実際に使用してもらった

成果物(完成作品)

写真に対して大まかな評価やその作品が持つ印象などを付け、それらをデータとして纏めることで、その写真が第三者から見た時にどのように映っているかというのが視覚的に理解しやすいようなツールになることを心掛けた。主となる評価基準は「作品の点数」、「コメント」の2つである。

作品の点数は“良い”、“ふつう”などのチェックボックスを選択し登録するが、内部では数字での点数評価になっており、与えられた点数に応じた採点結果が表示される仕様になっている。コメントはユーザーが自由に文章を入力し、チェックボックスではカバーしきれない細部の評価を文章によって入力することで、より具体的な評価をつけることができる。これらの機能により、写真初心者が写真に対する興味をより深めることに繋がるのが期待でき、写真撮影入門としてのツールとして活用できるものになっている。



考察

今回の講評会ツールを用いた方式では、写真を現像せずに画像データを画面上で見ると色味などが多少違って見える問題点が浮上したが、従来の方式だと叶わなかった全ての写真に対して具体的な評価が付くという目的を果たせたことは良かった。なにより、この方式を会津学鳳高校写真部様がお気に召してくれたことが本研究の一番の収穫であった。今後の展望としては、写真の持つ魅力を極力損なわぬように画面に画像を表示することと、より使いやすいユーザーインターフェイスの追及が必要だと感じた。